

原 著

と畜検査で発見された牛の末梢神経鞘腫瘍7例

川口絵梨[†] 中村溪太 岩田智明 大森笑子
中島孝郎 土肥富有子

神奈川県食肉衛生検査所（〒243-0022 厚木市酒井892-1）

（2024年3月25日受付・2025年1月9日受理・2025年4月17日公開）



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/4/78_e61/_article-char/ja

要 約

神奈川県食肉衛生検査所で過去15年間に発見された牛の末梢神経鞘腫瘍（PNST）7例の病理学的特徴を解析した。その結果、6例がホルスタイン種、1例が黒毛和種で、平均月齢は144カ月であった。肉眼所見では、腫瘍は胸壁、心臓、縦隔、腕神経叢、肝臓、脾臓、副腎、腹大動脈に認められた。6例では腫瘍は多中心性に発生し、一部で半透明ゼラチン状を呈していた。組織所見では、腫瘍はいずれも神経鞘腫の組織像が主体であり、一部で神経線維腫の領域も認められた。半透明ゼラチン状の腫瘍は主にAntoni B型の領域（B型）からなり、牛の神経鞘腫でもB型が主体となりうる事が明らかとなった。また、腫瘍細胞の核内に空胞が認められた。免疫染色では、神経鞘腫の腫瘍細胞はS-100にびまん性に、神経線維腫の腫瘍細胞は散在性に陽性を示した。

——キーワード：牛，と畜検査，神経線維腫，末梢神経鞘腫瘍，神経鞘腫。

-----日獣会誌 78, e61～e66 (2025)